

さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和 8年 8月 2日(土)		
事業名	ちば子ども大学		
趣 旨	大学、研究所、企業、関係機関等と連携し、多様な主体の力を結集することで、子どもたちの知的好奇心を育み、学ぶ意欲を高めることのできる様々な講座を実施し、「ホンモノ」から学ぶ楽しさを体感することで、子どもたちの自らの学びを広げ、深めることを目的とする。		
会 場	大研修室		
対 象	小学校4年生～中学校3年生		
申込方法	Web申込		
募集定員	50名	募集期間	令和 8年 7月 2日から令和 8年 7月8日
参加者数	61名	参加費用	無料
講師 等	明治大学 研究・知財戦略機構 先端数理科学インスティテュート 研究特別教授 杉原 厚吉 氏		
実施内容	内容:「ふしぎ体験！立体錯視アートの世界」 立体錯視アートの仕組みについて体験を通して学ぶ。 日程:午後2時 ～午後2時5分 オリエンテーション 午後2時5分 ～午後3時50分 講義、工作体験 午後3時50分～午後4時 アンケート記入、閉講  講師の杉原先生  錯視の作品を作成中  杉原先生のアート作品		
参加者 アンケート	【満足度100%】 ○学校では取り扱わない「錯視アート」を知ってとても興味を持ちました。 ○工作が楽しかったです。 ○色々なことが知れて面白かったです。 ○とても楽しかったので、家でも試してみます。 ○楽しい錯覚を発見したいです。 ○錯視はよくわからないものというイメージだったのですが、この講座でそのメカニズムを知ることができて面白かったです。		

	○錯覚とマジックの違いがわかりました。 ○杉原先生が錯視について詳しく研究していて驚きました。 ○「すれちがうライオン」の折り方の図がわかりやすかったです。 ○ものすごく不思議でした。 ○自分でも錯覚を作ることができて良かったです。 ○仕組みがわかっているけどやはり不思議に見えて面白かったです。色々な錯視があってもっと見てみたいと思いました。 ○本で見たことがあるものが出てきて驚きました。 ○錯視は学校では習わないので、とても貴重だと思いました。 ○中学校の文化祭で錯視の 3D プリンターの展示やだまし絵のクイズラリーなどをしていました。文化祭の準備中は先生の作品を色々見てとてもワクワクしていました。オリジナルの錯視の作り方を知れて、ますます錯視って面白いなと思いました。 ○普段思いつかないようなことを考えられました。 ○わかっているけどそう見えてしまう錯視は面白いと思いました。 ○向きや角度によって違うものに見えるのが面白かったです。 ○目の錯覚が起きるものは意外とあると思いました。
担当者の 所感	【成果】 ・本事業の趣旨については、講師の指導のもと、実際に錯視アートを作る体験を入れることで「ホンモノ」から学ぶ楽しさや、子どもたちの自らの学びを広げ深めるという目的を実現できた。 ・ちば子ども大学の周知については、各教育事務所を通じて各市町村教育委員会担当課へ周知を行った。講座当日には、13市から定員を超える受講生が参加し、広報の効果が伺える。 ・受講生のアンケートについては、満足度が100%と高い結果が得られた。実験や体験を通して錯視について分かりやすく学ぶことができた結果であると考え。 ・会場については、事前に講師に会場図案を送付し、共有することで円滑に準備することができた。 【課題・今後の方向性】 ・当日の体験(工作)については、受講者が作成することが難しいことを想定し、補助者となる職員の数を増やす等の対応が必要であると考え。 ・保護者の見学については、想定を超える数の保護者が会場内での見学を希望していた。「会場内での見学はできない」、もしくは「会場のスペースに限りがあるため全員は入れない可能性がある」等の連絡を事前しておく必要があると考え。